

印旛沼流域水循環健全化会議 第17回委員会 議事要旨

日 時：2010年1月7日（木） 13：30～17：00

場 所：Qiball 13階第1,2,3会議室

出席者：別紙参照

1. 議事概要

(1) 議事次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 議事
 - (1) 前回委員会の指摘対応とスケジュール
 - (2) 健全化計画書案について
 - (3) 第1期行動計画案について
 - (4) 各種取り組みについて
 - 1) 市民団体からの活動報告
 - 2) 市町村みためしの報告
 - 3) わいわい会議 in しすいの開催報告
 - 4) 印旛沼連携プログラムについて
 - 5) 北千葉道路建設事務所の取り組み報告
 - (5) その他
4. 閉会



(2) 配付資料

- 資料1 議事次第等
- 資料2 第17回委員会 本編資料
- 資料3 印旛沼流域水循環健全化計画（案）
- 資料4 第1期行動計画（案）
- 資料5 パワーポイント資料
- 資料6 対策把握調査結果
- 資料7 その他資料
（再生行動大会チラシ、川の健康診断マップ、水草マップ、連携プログラムパンフレット）
- 資料8 ご意見記入シート

2. 議事要旨

(1) 虫明委員長挨拶

- ・ 健全化計画を審議いただき、それを策定したい。
- ・ 行動計画の内容は、これから進化する、進歩するということを前提に、「案」をつけたまま策定したい。
- ・ 健全化会議は印旛沼に対する利害関係の異なる主体が集まっているため、調整しながら、win-win の関係になるように努めるものである。
- ・ 長門川水道企業団には、今後健全化会議の委員として加わっていただきたいと考えている。

(2) 前回委員会の指摘対応とスケジュール

- ・ 指摘 No.3「エコ農業の推進」について、消費者を巻き込んでいくことは難しいが、豊岡市の事例から、コウノトリやトキは消費者の興味をひく際に有用であると考えられる。コウノトリ米の価格は3割増で、他地域から人が集まってくるため、経済効果は10億円とも言われている。今度豊岡に行きデータを収集する予定なので、消費者と結び付けていくためにそのデータを活用し、エコ農業の経済的なメリットを、健全化会議で検討していただきたい。(太田委員)
 - 行動計画に結びつく話であり、太田委員にもいろいろと仕掛けていただきたい。(虫明委員長)

(3) 健全化計画書案について

- ・ 緊急行動計画の年次が「2003～2008年度」、第1期行動計画の年次は「2009～2015年度」と記載されているが、第1期行動計画は今日決定するため、それぞれ、「2003～2009年度」「2010～2015年度」ではないか。(堀田委員)
 - 今年度中の策定、計画期間の開始を目的としているため、現在の表記のまま承認いただきたい。(椿原主査)
 - 本会議で策定されたものが今年度から実施されるというのは考えにくい。基準年度が2008年というのを変える必要はないが、今年度策定、来年度実施が常識的ではないか。(虫明委員長)
 - 第1期行動計画の取り組み個票は、今年度の取り組みを記載しているため、策定時点から動き出しているというかたちにしたい。(椿原主査)
 - 結論は、委員長・事務局預かりとさせていただきます。(虫明委員長)
- ・ 長門川水道企業団が昨年度の水位変動実験の際に受けた被害金額(薬品量の増大など)は、1,459万5,000円であった。我々が当初から計画や検討会に参加していれば違う結果もあったかもしれないと感じている。通常でも、満水時には印旛沼の水が長門川に流れこみ、濁度が上昇し、水処理に苦労している。千葉県に対し、被害が出た場合の補償、水質の改善を事前をお願いしていたが、実際の被害が出て補償体制が整っていなかったというのが現状である。P38の図に「水位低下」という言葉が残っている。これを計画に載せるのであれば、補償や対応策をやっていただくことがなければ認めることはできない。(長門川水道企業団 富山)
 - 異存はない。P38の図はあくまでも「イメージ図」である。水草再生には沼底に光

を届かせることが重要で、その方法の一つとして記載している。「漁業や利水に影響が少ないよう、水位を低下・変動させる」という説明文をいれているように、十分な配慮をする予定である。(事務局 林副主幹)

- 被害が出てしまったことについてはお詫びする。決して、被害をだしながら続けたいとは考えていない。今後、委員として参加していただき、了解を得ながらすすめていきたい。(虫明委員長)
- ・ 舟戸の水草園でも、水位低下の際に水が枯れてしまうという被害が生じたことがあった。その対策として、40万かけて、水が漏れないよう保水工事を行った。(太田委員)
- ・ 本計画は長期計画で、今後、社会情勢によって大幅な見直しが行われる可能性もあるが、現段階で考える目標を書いているという理解のもと、この場で承認とさせていただきたい。(虫明委員長)
 - (異議なし)

(4) 第1期行動計画案について

- ・ 本計画をまとめるにあたっては、平成16年から5年間、様々なかたちでみためしを行ってきた。流域対策は重要な要素であり、沼から流域を見るのではなく、流域から沼へ、という考え方が中心となるべきである。流域の15市町村の協力なしには、行動計画は絵に描いた餅になってしまう。具体的な目標を掲げ、全関係者に協力いただきたいという想いで、案を練ってきた。新しい観点でとりまとめた計画だと考えている。(堀田委員)
- ・ 印旛沼流域は、現在15市町村であるが、近いうちに市町村合併の予定がある。合併を受けて、行動計画で掲げている取り組みをとりやめる、ということになりかねない。どう取り扱っていくべきか考えていかなければならない。(本橋委員)
 - 現時点の行動計画は、印旛沼健全化の精神のもとに市町村の取り組みが挙げられているわけではなく、計画に関係のある取り組みを羅列しているだけである。もっと心が重要で、印旛沼に焦点をあて、その地域が誇りを取り戻し活性化するという精神を注入することが必要である。その作業の中で、市町村合併等を含め、様々な変化に対応していけばよい。そういった意味でも「(案)」は残すべきである。(虫明委員長)
- ・ P16に「ちばエコ農業による耕作面積」の現状の数値について、水田・畑の内訳がわからない。(太田委員)
- ・ 三門氏がエコファーマー認定をうけている。米1kgあたり800円という高値で販売しているが、その価格でないとコスト分をまかなうことができないそうだ。苦勞して認定を受けても売り上げは伸びないとのことである。買い手がいなければ、ちばエコ農業による耕作面積は増やせない。事業性がないことが一番の課題である。消費者、流通者を巻き込むしくみを真剣に考えるべきである。(太田委員)
 - ご指摘の通りと認識している。生産面のみならず、消費や流通にも配慮した対策が必要であるということは数年前から認識しており、みためし農地系でも検討中である。水田か畑作か、作物や農家の規模も違うため、画一的な対策はなじまず、状況に応じて対応するきめ細かい対策を考える必要がある。消費者に生産者の実態を知ってもらうことや、エコ農産物のブランド化なども1つの方法として考えられる。今回、みためし農地系の委員としてグリーン・ブルーツーリズムなどを実践している方々にも委員に入っただき、ともに検討を進めているところである。(事務局 山口副主幹)
 - 食育基本法が制定され、食育フォーラムには消費者、主婦が参加している。しかし、

エコについてはあまり配慮されていない。主婦層に対し、食育・食農というアプローチの方法についても検討していきたい。(太田委員)

- ・ 行動計画案については、今後も折に触れて充実を図っていく。異議がなければ、承認とさせていただきます。(虫明委員長)
 - (異議なし)

(5) 各種取り組みについて

1) 市民団体からの活動報告

- ・ 水質調査の分析排水はどのように処理しているのか。(本橋委員)
 - タンクにため、最終的には専門業者に頼んで処理する予定である。(美島委員)
- ・ クレソンを栽培しているようだが、その場所の水温はどの程度か。クレソンは15度以上になると急成長して花が咲くため、水質浄化のためにクレソンを使用するのは10度以下の冬場のはずである。(本橋委員)
 - いかだの会で栽培しているクレソンは、越冬して春先に芽がでてきている。(美島委員)
- ・ 淡水真珠養殖の事例は日本にどのくらいあるのか。(山田委員)
 - 池蝶貝は、牛久沼や琵琶湖などの事例がある。(美島委員)
 - 道頓堀ではオーナー会員制度をとっている。そのような市民連携は興味深い。日本で淡水真珠が自生しているのは北海道の天塩川だけである。淡水真珠に詳しい先生によると、クレオパトラがつけていたのは淡水真珠で、生産性の悪さから海の真珠にうつっていったとのことである。市民と連携し、河川・湖沼の水質浄化として淡水真珠を養殖することは、日本独特の世界に誇れる技術になりうる。(山田委員)
 - 埼玉県の内田競艇場では、1000個程の池蝶貝を使って水質浄化に利用した事例がある。(美島委員)
- ・ 河川は富栄養化に悩み、その隣で農業は肥料をまいて生産性を挙げている。そのような中、いかだの会の取り組みは、富栄養化した水をうまく農業に利用するという視点である。農業としての今後の可能について、どのように考えているのか。(中村委員)
 - 印旛沼にない、今までにない産業が創出できると考えており、この農法を「湖上農法」という言葉を使い始めている。冬場はセリ、春から夏にかけては空心菜など、季節によって作物を変えている。これらを印旛沼流域の特産物として販売することで、いかだの会の管理費用を捻出できるということも考えている。(美島委員)
- ・ 現時点で生業になっているのか。栽培した作物は出荷しているのか。(虫明委員長)
 - アルミの組み立て式が開発されてから、軽量で腐食もなく長く使用でき、市民が参加しやすい浄化設備ということで、各自治体が興味をもってくれている。ただ、環境学習を目的とした場合は農産物を差し上げており、イベント等でも使用してしまっている。以前は八街の問屋に運び、運営費を稼いでいたこともある。(美島委員)
 - 個人的に空心菜が好きで、タイのニンニクと唐辛子で炒めたものが美味である。クレソンはカンボジアのクレソンスープが美味である。好きな人もいるので、出荷して儲けるしくみとしてはどうか。(虫明委員長)

2) 市町村みためしの報告

- ・ 今後、「湧水調査」「合併浄化槽」など、テーマが同じ市町村同士が連携するような動きが出てくるとよい。(虫明委員長)

- ・ 千葉市の取り組みについて、調査した 38 の湧水箇所のうち、湧出していない場所の管理はしないのか。町場の湧水は、季節によって湧出量が変わるものである。（本橋委員）
 - 湧出していなかった箇所も定期的に見回り、施策実施の成果が表れるかどうかを確認していきたい。（千葉市環境保全推進課 石井係長）
- ・ 行政主導ではなく、市民団体にある程度管理を任せたらいいのではないかと思う。（本橋委員）
- ・ 千葉市が発表した BOD 値は改善されているが、行動計画書 P22 行動展開図に記載されている千葉市の市街地負荷量は大きい。整合性はとれているのか。（太田委員）
 - 行動計画における負荷量は、原単位に対して面積をかけて算出している。（事務局 千勝副主幹）
 - 千葉市が提示した BOD 値は、毎月定点で測定している値の年平均値を示しているため、行動計画の値と一致するとは限らない。（千葉市環境保全推進課 石井係長）
 - 行動展開図における市街地の負荷量は、主に降雨時に流出する負荷量を示している。千葉市提示の BOD や行動展開図に記載している COD の値は、平常時の水質を月 1 回測って平均した値なので、降雨時の値は反映されていない。市街地の負荷量は、雨天時の対策の必要性を示していると考えていただきたい。（事務局 上原）
- ・ 千葉市では湧水が入ってきている河川を中心に測定しているのか。（虫明委員長）
 - 市内の河川について代表的な地点で測定しており、鹿島川については、下流は下泉町、上流は下大和田町、平川町で、川の水をサンプリングしている。（千葉市環境保全推進課 石井係長）
 - どの湧水を測るかも重要である。大量に湧出している箇所もある。千葉市には湧水箇所を指示し、協働でやろうという提案をしている。どのように継続していくのか、互いに研究していきたい。（堀田委員）
- ・ 行動計画というのは、千葉市が行っているような調査や、どのような改善をすればどのように変化していくのか、という実際の情報を盛り込んでいく必要がある。（虫明委員長）
- ・ 湧水調査は市民が活発に実施しているので、連携して進めてほしい。その際は、生物多様性、環境、水神などの文化も引き継ぐような湧水保全をお願いしたい。（中村委員）
- ・ 富里市のとりくみについて、生活雑排水対策として高度処理型合併処理浄化槽の設置を進めていると発表していたが、生活雑排水の垂れ流しは、汲み取り式と単独処理浄化槽に対しての問題である。汲み取り式と単独処理浄化槽の利用家庭を対象としていると考えてよいのか。（本橋委員）
 - 富里市は単独浄化槽と汲み取りの人口が高く、「生活雑排水が未処理のまま流されている箇所について、高度処理型合併処理浄化槽を推進していく」という意味でこのような表現としている。（富里市環境課 矢口主査）
 - 正確には、「汲み取り式、単独処理浄化槽の設置宅に対し、合併処理浄化槽への転換を図る」という理解で相違ないか。（本橋委員）
 - そのとおりである。（富里市環境課 矢口主査）

3) わいわい会議 in しすいの開催報告

（意見は特になし）

4) 印旛沼連携プログラムについて

- ・ 印旛沼連携プログラムの実施要領の変更、及び登録団体のホームページでの広報という

仕組みについて、NPO の方の意見を伺いたい。(虫明委員長)

- 事前の打ち合わせがあり、自分も変更案作成に参加したため、賛成である。(美島委員)
- 美島委員同様、賛成である。あとは、いかに実行するかということが重要である。(金山氏)
- ・ 連携プログラム要領の変更、および登録団体のホームページでの広報という仕組みについて、現案の通り承認とさせていただきたい。(虫明委員長)
 - (異議なし)

5) 北千葉道路建設事務所の取り組み報告

- ・ 橋の完成後は、川の駅のような拠点をつくる構想があると聞いている。そのような関連情報は全て報告してほしい。(虫明委員長)
 - まだ決定事項ではないため、発言は控えたい。(北千葉道路事務所 渡邊所長)
 - そういう縦割りの姿勢はよくない。外部からは印旛沼全体で動いているという見方をしているので、地域としてどう受け止められるか、という視点をもっていただきたい。各々がつながっている方が、地元にとってはわかりやすいと思う。(虫明委員長)

6) その他

- ・ 普通、「印旛沼流域に住んでいる」という感覚を持っている人は少ない。最近、川の駅構想というものがあるが、ハコモノをつくらなくても、川や沼の近くに住む人が「うちは川の駅だ」と言ってしまえばいい。そこに行けば資料が置いてあり、川や沼の話を聞いて情報収集できる、というしくみであれば資金は不要である。(山田委員)
- ・ 水循環健全化といっても、印旛沼の水をきれいにするだけが目的ではない。水辺を活かしたまちづくりという視点が重要である。堀田委員たちが、来年の「川での福祉と教育の全国大会」を誘致している。水循環だけでなく、他の視点をもって対応して行くことが必要である。(虫明委員長)
 - 水質浄化、水辺の環境だけでなく、福祉や医療に視点を広げていく。健常者だけでなく、あらゆる人たちに開かれた沼の姿を考えていきたい。(堀田委員)
- ・ 印旛沼の文化、経済圏を立ち上げて、商品化していく必要がある。そこで、印旛沼流域の懇談会を立ち上げ、川の駅構想を含め動き始めている。機会があれば発表させていただきたい。(太田委員)
 - 健全化会議の中ですべて行うということではなく、目指す方向性は同じものを持ちつつ、各自積極的に進めていただければと考える。(虫明委員長)
- ・ 今後、川にかけられる予算は減っていく傾向で、どのように資金を得るかが重要となってくる。水の安全保障戦略機構という組織の中で、パラスト水チームが研究を進めている。例えば、京葉工業地帯にアラブのタンカーが原油や鉄鉱石を積んできて、荷を降ろすと船が浮くので、今は海水を積んで帰っている。例えば50万tタンカーだと10万t以上の海水を積んで帰り、帰国後、アラブの海に日本の海水をばらまく。これが環境破壊だと言われている。そこで、タンカーが帰国の際に積む水を、海水でなく淡水とすることで、環境破壊を防ぎ、商売にもなるのではないかと、ということである。研究チームは、淡水を積ませてくれる場所を探している。水利権の目的外使用など、法的な問題を解決する必要はでてくるが、印旛沼の水位低下の際の余剰水を、ただ流すだけではなく販売することはできないか。ビジネスとして利益を得られれば、その一部を印旛沼の環境保

全や活動資金として活用することができる。将来の課題として、県に検討していただきたい。(山田委員)

- ・ 計画書など、住民の協力なしには進まない。しかし、NPOに若い人の参加が少ない。NPOは住民と行政の架け橋である。そのような団体に対して、行政がもっとサポートすべきである。(本橋委員)
 - みためし学び系や子ども会議などの取り組みでは、若い人(子どもたちの兄弟、地域のボーイスカウト、父兄など)の活動も進めている。(堀田委員)
 - 今後、若い地元の研究者に参加いただく予定もある。(虫明委員長)

(6) その他

- ・ 配付資料6の施策進捗調査表については、後ほど各自確認いただきたい。(事務局 椿原主査)
- ・ 2月4日の再生行動大会では、長期計画を発表したいと考えている。また、流域15市町村ご登壇の上で承認式のようなことを実施する予定である。是非参加いただきたい。(事務局 林副主幹)
- ・ 印旛沼サポートセンターについては、これまでワーキングの中で1年程度議論し、課題も明らかになってきている。今年から立ち上げに向けた行動を起こしていく予定である。随時報告させていただく。(事務局 林副主幹)
- ・ 去る10月31日から11月4日まで、世界湖沼会議に参加した。印旛沼の事例を3事例ほど発表し、かなり関心を持っていただけたという感触をもっている。今後、機会をみてご報告させていただく。(事務局 林副主幹)
- ・ 笠井先生の記念事業の一環として、大場先生の講演「千葉県の水草 過去・現在・未来」を、1月21日、14時~16時、佐倉ミレニアムセンターにて開催する。今日資料を配付できなかったので、メール等で広報いただきたい。(太田委員)
 - ホームページでの公開、メール配信等、方法は太田氏と相談の上、広報していただきたい。(虫明委員長)
- ・ 印旛沼環境基金では、2月6日1時半から、八千代台文化センターにていんば沼フォーラムを開催する。「いんば沼、大丈夫か」をテーマに、生き物からみた印旛沼についての話を取り上げる。参加いただきたい。(本橋委員)
 - 関係のあるサイトにはホームページでリンクを貼り、いろいろな情報がつながるようにはどうか。興味のある人が情報をたどれるようにできるとよい。(虫明委員長)

以上